

## 観点別評価について

愛媛県立大洲高等学校

鵜久森 晃

### 1 はじめに

本校は、今年度で創立 114 年を迎え、商業科生徒数 1 年生 40 名、2 年生 40 名、3 年生 40 名、普通科 1 年生 151 名、2 年生 159 名、3 年生 158 名の全校生徒 588 名の中規模の高校である。普通科は 80% 以上、商業科も 70% 以上の生徒が進学している。普通科では、2 年次に文系・理系の 2 コースに分かれ、習熟度別クラスを編成するなど、生徒たちの進路希望をかなえられるように工夫している。

「社会と情報」については、普通科が 1 年次に 2 単位実施している。授業は、基本的にパソコン教室で行い。1 時間の中で、できるだけパソコンを使う時間を設けている。教科書は実教出版の「最新社会と情報」、問題集は実教出版の「最新社会と情報学習ノート」、実習では実教出版の「基礎からはじめる情報リテラシー」を使っている。普通科は 4 クラスあり、私 1 人で担当している。

今年の指導目標は、一つは、コンピュータや情報通信ネットワークを活用し、実習を通して身の回りの諸課題を解決するための知識と技能を習得するとともに、情報を主体的に活用する態度を養うことである。もう一つは、情報化が生活に及ぼす影響を理解し、情報社会に主体的に参加できる態度を養うことである。これらのことを生徒たちに意識させるため、できるだけ情報に関するニュースを授業の最初に取り上げるようにしている。

### 2 主題の設定理由

去年、私は本校に赴任して、初めて 4 クラスも担当することになった。今までは、1 クラスぐらいだったので、評価するのに苦労した。幸い 1 人で担当であったので、何とかかなったものの、今年はより適切な評価をするために、観点別評価について研究してみた。

### 3 研究内容

#### (1) 評価の観点及び評価の規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
・身の回りの問題解決を通して情報を主体的に活用しようとしている。 ・ネットワーク等に興味や関心を持っている。	・情報を収集・処理・発信する方法を工夫している。 ・情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。	・コンピュータなどを活用し、目的に応じて、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な技術を習得している。	・情報を適切に処理・発信するための基礎的な知識を身に付けている。 ・情報技術の役割や影響を理解している。

(2) 学習指導計画表

評価の規準にしたがって、以下のような学習指導計画表を作成した。

月	週	日	単元名	項目	指導事項	評価の観点			評価規準	時数	
						関	思	技知			
4	1	7~11	第1章 情報社会とわた したち	1 情報社会	情報社会と情報			○	・情報のデジタル化によるコミュニケーションの変化を理解しているか。	2	
	2	14~18		2 情報社会の個人	情報化の光と影			○	・デジタル化による影響を捉えているか。	2	
	3	21~25			個人情報とその保護		○		・個人情報を扱う責任とモラルについて関心があるか。	2	
	4	28~5.2		情報を扱う責任とモラル		○		・社会のシステムがどのように変貌するのかを創造的に思考できるか。	2		
5	5	5~9	3 情報とメディア	1 情報の特徴	情報の特徴			○	・情報の特徴を理解しているか。	1	
	6	12~16		メディアの特徴			○	・情報に適したメディアを選択できるか。	1		
	7	19~23		メディアリテラシー		○		・メディアリテラシーに沿って情報を取り扱う態度があるか。	2		
	8	26~30		アナログとデジタル		○		・アナログとデジタルを比較して適切に選択できるか。	2		
6	9	2~6	第2章 情報機器とディ ジタル表現	1 デジタルと情報機器	情報機器			○	・情報機器の種類と特徴について理解しているか。	2	
	10	9~13			2進数と情報量			○	・2進数、10進数、16進数の相互変換できるか。	2	
	11	16~20		2 デジタル表現	数値・文字の表現			○	・数値・文字の情報を適切にデジタル表現できるか。	2	
	12	23~27			音声の表現			○	・音声のデータ量を計算できるか。	1	
7	13	30~7.4	画像の表現			○	・動画のデータ量を計算できるか。	2			
	14	7~11	ワープロソフトの利用		○		・ワープロソフトについて関心があるか。	1			
	15	14~18				○	・ワープロソフトを活用できるか。	1			
1学期計									25		
8	16	25~29	第3章 表現と伝達	1 表現の工夫	わかりやすい情報伝達			○	・目的や対象を明確にして、表現やデザインの工夫を行っているか。	1	
	17	1~5			企画書の作成			○	・意欲的に企画書の作成に取り組んでいるか。	1	
	9	18		8~12	2 表計算ソフトの利用	データの入力、グラフの作成			○	・課題に応じて利用するグラフを選択できるか。	2
		19		15~19		データの抽出			○	・データの入力と抽出ができるか。	2
10	20	22~26	関数と引数				○	・関数について理解しているか。	1		
	21	29~10.3	データの検索				○	・データの検索について理解できているか。	2		
	22	6~10	3 プレゼンテーション	多様な表現メディアの利用			○	・画像、音声、アニメーションを利用しているか。	1		
	23	13~17		アプリケーションの評価と改善			○	・適切な改善策や評価の視点をあげているか。	2		
11	24	20~24	4 Webページの利用	Webサイトの制作			○	・Webサイト制作の流れを理解しているか。	2		
	25	27~31					○	・デザイン通りの表現ができているか。	2		
11	26	3~7	第4章 コミュニ ケーションと ネットワーク	1 コミュニケーション	発達の歴史			○	・電子メールや掲示板を利用する際のルールやマナーを守ろうとしているか。	2	
	27	10~14			様々なコミュニケーション			○	・コミュニケーションを適切に活用できるか。	2	
	28	17~21		2 ネットワーク	ネットワークのコミュニケーション			○	・通信方式とその相違を理解しているか。	2	
	29	24~28			インターネットの仕組み			○	・目的に応じてインターネットのサービスを利用できるか。	2	
12	30	1~5		転送速度と圧縮			○	・ファイルの圧縮できるか。	1		
	31	8~12		表計算ソフト			○	・積極的に演習課題を行っているか。	1		
	32	15~19					○	・表計算ソフトを使いこなせるか。	1		
2学期計									27		
1	33	5~9	第5章 法規とセキュリ ティ	1 権利の保護と権利行使の法	知的財産権			○	・著作権を侵害しないように著作物を利用する態度を身に付けているか。	1	
	34	12~16			さまざまな法律			○	・著作権の例外規定を理解しているか。	2	
	35	19~23	2 情報セキュリティ	情報セキュリティ技術			○	・情報セキュリティの驚異に対策を正しく判断し、対処できるか。	2		
	36	26~30	第6章 情報社会と問題解決	1 情報システムと人間	社会における情報システム			○	・社会における情報システムの種類と内容について理解しているか。	2	
2	37	2~6			人に優しい情報システム			○	・情報コンテンツの改善を提案できるか。	2	
	38	9~13		情報社会の課題			○	・情報社会の課題に対して、解決に向けた提案ができるか。	1		
3	39	16~20		2 問題解決	問題解決の手順と手法			○	・問題解決のための手段を選択できるか。	2	
	40	23~27	問題解決の実践				○	・問題解決の評価を適切に行っているか。	1		
3	41	2~6		プレゼンテーションソフト			○	・プレゼンスライドを制作できるか。	1		
	42	9~13					○	・実際に意欲的にプレゼンできるか。	2		
3学期計									18		
学年計									70		

### (3) 単元ごとの評価規準

#### ア 第1章「情報社会とわたしたち」

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化された情報を正しく取り扱おうとする態度が見られるか。</li> <li>・個人情報扱う責任とモラルがあるか。</li> <li>・メディアリテラシーに沿って情報を取り扱う態度があるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を収集・処理・発信する方法を工夫しているか。</li> <li>・情報モラルを踏まえた適切な判断ができるか。</li> <li>・メディアリテラシーを身に付け、情報を取り扱う判断力と表現力があるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報ネットワークを使って正しくコミュニケーションできるか。</li> <li>・情報の信憑性や信頼性に留意しながら情報を取り扱う技能があるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の光と影について理解し、具体例を示せるか。</li> <li>・個人情報保護について理解しているか。</li> <li>・情報やメディアの特徴、分類、特性について知識を持っているか。</li> </ul>

#### イ 第2章「情報機器とデジタル表現」

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報のデジタル化や情報機器に関心があるか。</li> <li>・情報量について、興味を持っているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アナログとデジタルを比較して、適切に選択できるか。</li> <li>・数値・文字・音声・画像の情報を適切にデジタル表現できるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル画像を処理する技能があるか。</li> <li>・2進数、10進数、16進数の相互変換できるか。</li> <li>・情報のデータ量の基本的な計算ができるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器の種類と特徴について理解しているか。</li> <li>・数値・文字・音声・画像など、情報のデジタル化の原理を理解しているか。</li> </ul>

## 4 実践結果

学習指導計画表や単元ごとの評価規準にしたがって、授業中については、3段階で評価した。教務手帳に、できている生徒には＋、できていない生徒には－、ふつうの生徒には何もつけないようにした。また、書き込み式の問題集を提出させ、書き込みの状態や提出時期で意欲を評価した。これらのことから、1学期の成績の40点分を評価し、残り60点分をテストで評価した。その結果、テスト以外の評価の平均が29点となり、クラス間格差は0.2でほとんどなかった。

また、ワープロソフトの技能については、実技テストを実施した。実際に30文字×22行の文章を10分間打ち込んでもらい、10行以下の場合は1点、11行から17行の場合は2点、18行～21行は3点、最後まで打ち込めた場合は4点、さらに、どのケースの場合もノーミスであれば、プラス1点加算した。この評価は、2学期の成績に反映させるつもりである。

夏休みには、「7月以降の情報に関連するニュースを見つけ、そのニュースに関して感想を書く。」という課題を与えた。この課題において、「身の回りの情報に対して主体的に活用しているか。」という関心・意欲・態度の観点とともに、「情報モラルを踏まえた

適切な判断ができるか。」という思考・判断の観点についても評価した。

ちょうど「ベネッセの個人情報流出」のニュースがあったばかりであったので、このニュースばかり取り上げると予想していたが、その予想に反して、1クラスに3～4人ほどであった。しかも、1クラス30ぐらいのニュースがあり、あまり同じニュースがなかった。身の回りのニュースに対して敏感である証拠であろう。ただ、全然情報と関係ないニュースを取り上げた生徒も各クラスに2人ずつぐらいいたので、これからも指導していく必要がある。

左のレポートは、「カルテの紛失」のニュースであるが、この生徒は医療関係の進路を考えているので、電子カルテと結びつけて主体的に問題を考えていた。

他の生徒についても情報を主体的に活用しようとしていた。感想については、2学期に1人1分ぐらいの時間で全員に発表させた。これは、「情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な技術を習得しているか。」という技能・表現の観点において評価した。具体的には、声の大きさやわかりやすさをそれぞれ3段階で評価した。

## 5 まとめと課題

観点別評価をしてみてわかったことは、評価することの難しさである。提出物やレポートを評価するときは、4クラスをゆっくりと評価できるので、評価していて途中で規準を変更することもある程度可能である。しかし、授業においてはそうはいかない。あらかじめ評価規準をしっかりと決めておかないと、適切な評価はできない。他のクラスとの比較もできない。また、その方法にももっと工夫の余地がある。教務手帳に付けていくのは限りがあり、一覧表をあらかじめ作っておき、それに付けた方がよいかもしれない。

今回は章ごとに観点別に評価規準を作成したが、適切な評価をするためには、もっと細かく項目ごとに検討した方が良く感じた。学習指導計画ではおおざっぱに決めているが、実際の評価の場面では不十分である。これからも観点別評価について研究を深め、適切な評価をしていきたい。

愛媛新聞 2014.7.19(土)  
資料①

### 愛媛大 カルテ1冊紛失

愛媛大医療部付属病  
院(東通市志津川)は、  
19日、過去の約年分  
の病名や氏名、住所な  
どを記載した外来患者  
1人の紙カルテ1冊が、  
8月中旬から所在不明  
になっていると発表し  
た。病院は患者や家族  
に謝罪。近年のデータ  
は電子カルテに保存し  
ているため紛失問題  
はないとい。院外に  
持ち出された可能性は  
低いとみていた。

紙カルテは、貸出時  
と返却時にバーコード  
と目視で二重のチェック  
クを実施。外来職員は  
返却時に冊数を確認し  
たとしていない。見つ  
かっているが、見つ  
かっているが、見つ

病院は、電子カルテ  
の利用を徹底するほ  
か、持ち出し時には貸  
借双方が立ち会うよう  
対策を講じた。情報  
対策を講じた。情報  
対策を講じた。情報

約24時間後に外来診療  
科職員がまとめて返却  
した際、カルテ室スタ  
ッフが1冊居ないの  
に気付いた。

情報社会となった現在、私たちは様々な恩恵を受けている反面、危険にもさらされている。大きな社会問題となっている「ベネッセ」での個人情報漏えい事件。0歳の時から「進研ゼミ」の会員である私には、「え、私の情報も流出したの。」と、普段は、他人事であった「個人情報の管理」の重要性を、実体験したのである。今回ベネッセで漏えいされた私の個人情報には、郵便番号・私と保護者の名前(漢字およびフリガナ)・住所・電話番号・私の生年月日の5点であった。[H26.7.10 ベネッセ 謝罪文より]

病院のカルテといえは、氏名・住所・生年月日・性別の基本四情報は、もちろん、病歴や治療の経過が記入されている。そんな大切な情報が不十分な管理により紛失しているという。愛大医学部では、電子カルテの利用を徹底すること、持ち出した時に、貸借双方が立ち会うことの2点を見直す対策を立てている。